

昇級審査の内容と実施要領

※立会いの礼法、着装、発声、気合については7級以上或いは5級以上の実施種目に記載されていないが、当然の事とし、各級に応じた習熟度で審査の対象とする。

基準	実施要領	級位	対象	実施種目	着装	合格基準	実施要領
元立ちに対し (数人同時可)	※所作を熟知していること。 ※立会補助者がついて補助指導を行う。	9級 ↓ 8級	年齢制限なし	立会いの礼法	剣道着・袴のみ	礼儀作法がおおむね出来る	・立礼の間(9歩の間合い)から立礼⇒帯刀⇒歩み足にて3歩前進⇒立会いの間
				(帯刀の姿勢から中段の構え) 帯刀～蹲踞～中段の構え	(胴・垂なし)	(中段の構えがおおむね出来る) 帯刀～蹲踞～中段の構えがおおむね出来る	(・立ち姿勢から中段の構え) ・立礼の間(9歩の間合い)から立礼⇒帯刀⇒歩み足にて3歩前進⇒蹲踞⇒立ち上り中段の構え(立会いの間)
				足さばき		足さばきがおおむね出来る	・中段に至る歩み足、素振りの送り足
				正面素振り		送り足で正面素振りが出来る	・(送り足にて)前後の正面素振り4本⇒前進の正面素振り3本⇒後退の正面素振り3本⇒元の位置、中段の構え(立会いの間)
			発声(めん)		元気な発声出来る	・立ち姿勢から納め刀(帯刀)⇒歩み足にて5歩後退⇒立礼の間⇒下げ刀⇒立礼	
元立ちに対し (数人同時可)	※所作を熟知していること。 ※立会補助者がついて補助指導を行う。	8級 ↓ 7級	小1以上	立会いの礼法	剣道着・袴	礼儀作法が出来る	・立礼の間(9歩の間合い)から立礼⇒帯刀⇒歩み足にて3歩前進⇒立会いの間
				(帯刀の姿勢から中段の構え) 帯刀～蹲踞～中段の構え	剣道具一部	(中段の構えが出来る) 帯刀～蹲踞～中段の構えが出来る	(・立ち姿勢から中段の構え) ・立礼の間(9歩の間合い)から立礼⇒帯刀⇒歩み足にて3歩前進⇒蹲踞⇒立ち上り中段の構え(立会いの間)
				足さばき	(胴・垂のみ)	素振りの足さばき出来る	・中段に至る歩み足、素振りの送り足
				正面素振り		送り足で正面素振りが出来る	・(送り足にて)前後の正面素振り4本⇒前進の正面素振り3本⇒後退の正面素振り3本⇒元の位置、中段の構え(立会いの間)
			発声(めん)		元気な発声出来る	・立ち姿勢から納め刀(帯刀)⇒歩み足にて5歩後退⇒立礼の間⇒下げ刀⇒立礼	
受審者同士 (数組み同時可)	※受審者の組み合わせは受審級の同じ者、且つ、同程度の学年(年齢)の者とする。(受審者が一名の場合、直近上位級の受審者を行う) ※立会補助者がついて補助指導を行う。	7級 ↓ 現8級の内容に変更	小2以上	着装	剣道着・袴	着装がおおむね出来る	・剣道着がはだけていないか。袴が前下がりに着装出来るか。面紐が揃えて着装出来るか。結び目から40cm以内の長さになっているか。小手紐はたれていないか。
				帯刀～蹲踞～中段の構え	剣道具一式	帯刀～蹲踞～中段の構えがおおむね出来る	・立礼の間(9歩の間合い)から立礼⇒帯刀⇒歩み足にて3歩前進⇒蹲踞⇒立ち上り中段の構え(立会いの間)
				足さばき(正面打ち)		正面打ちの足さばきがおおむね出来る	
				正面打ち(大きく)4本		踏み込み足で正面打ちがおおむね出来る	・中段の構え(立会いの間)⇒触刃の間⇒一足一刀の間⇒振りかぶって正面打ち⇒送り足にて相手の左脇を抜ける⇒左回りに向きなおし残心(2往復・4本)
			発声、気合		元気な発声出来る	⇒再び触刃の間⇒一足一刀の間⇒振りかぶって正面打ち⇒送り足にて相手の左脇を抜ける⇒左回りに向きなおし残心⇒もう一度繰り返す(往復2回)	

基準	実施要領	級位	対象	実施種目	着装	合格基準	実施要領
受審者同士（数組み同時可）	※受審者の組み合わせは受審級の同じ者、且つ、同程度の学年（年齢）の者とする。（受審者が一名の場合、直近上位級の受審者を行う） ※立会補助者がついて補助指導を行う。	6 級	小2以上	着装	剣道着・袴	着装が出来る	・剣道着がはだけていないか。袴が前下がりに着装出来ているか。面紐が揃えて着装出来ているか、結び目から40cm以内の長さになっているか。小手紐はたれていないか。
				帯刀～蹲踞～中段の構え	剣道具一式	帯刀～蹲踞～中段の構えが出来る	・立礼の間（9歩の間合い）から立礼⇒帯刀⇒歩み足にて3歩前進⇒蹲踞⇒立ち上り中段の構え（立会いの間）
				足さばき（正面打ち）		正面打ちの足さばきが出来る	
				正面打ち（大きく）4本		踏み込み足で正面打ちが出来る	・中段の構え（立会いの間）⇒触刃の間⇒一足一刀の間⇒振りかぶって正面打ち⇒送り足にて相手の左脇を抜ける⇒左回りに向きなおし残心（2往復・4本）
				発声、気合		元気な発声が出来る	⇒再び触刃の間⇒一足一刀の間⇒振りかぶって正面打ち⇒送り足にて相手の左脇を抜ける⇒左回りに向きなおし残心⇒もう一度繰り返す（往復2回）
受審者同士（一組みずつ）	※受審者の組み合わせは受審級の同じ者、且つ、同程度の学年（年齢）の者とする。（受審者が一名の場合、直近上位級の受審者を行う） ※立会補助者は付かず、場合により適宜指導する。	5 級	小3以上	切り返し	剣道着・袴	切り返しがおおむね出来る	・切り返しは2回行い、最後の正面打ちで相手の左脇を抜けた後左回りに向きなおしもう一度正面打ちをし、元の位置に戻る。（各級同じ）
				正面打ち（大きく）2本	剣道具一式	面打ちが出来る	・正面打ちの要領は7・6級と同じ（1往復2本）
				小手一面打ち（大きく）2回		小手一面打ちがおおむね出来る	・小手一面打ちも正面打ちと同じ要領で行う。振りかぶって大きく打つ。元立ちは小手を受けた後一歩下って面を受ける。（1往復2回）
				互角稽古		互角稽古がおおむね出来る	・互角稽古の時間は概ね1分程度とする。
5 級に同じ	5級に同じ	4 級	小4以上	切り返し	剣道着・袴	切り返しが大きな動作で出来る	・同5級。習熟度を上げる。
				正面打ち（大きく）2本	剣道具一式		・同5級。 "
				小手一面打ち（大きく）2回		小手一面打ちが出来る	・同5級。 "
				小手一面一胴打ち（大きく）2回		三段技がおおむね出来る	・小手一面打ちと同じ要領で、続けて刃筋正しく胴を打つ。振りかぶって大きく打つ。元立ちは小手、面をそれぞれ受けた後、一歩ずつ下って次の技を受ける。（1往復2回）
				互角稽古		互角稽古がおおむね出来る	・同5級。習熟度を上げる。

基準	実施要領	級位	対象	実施種目	着装	合格基準	実施要領
5級に同じ	5級に同じ	3級	小5以上	木刀による剣道基本技稽古法基本1～4	剣道着・袴	基本1～4までの基本技が正しく出来る	木刀で行う
				切り返し	剣道具一式	切り返しが伸び伸びと出来る	2組ずつ一斉に行う
				互角稽古		互角稽古が出来る	相手を代え2回行う。時間は45秒程度とする。(受審者が2人以下の場合は1回・1分程度とする)
5級に同じ	5級に同じ	2級	小6以上	木刀による剣道基本技稽古法基本1～6	剣道着・袴	基本1～6までの基本技が正しく出来る	木刀で行う
				切り返し	剣道具一式	切り返しが伸び伸びと出来る	同3級
				互角稽古		互角稽古が出来る	同3級
5級に同じ	5級に同じ	1級	中学1年以上	木刀による剣道基本技稽古法基本1～9	剣道着・袴	基本1～9までの基本技が正しく出来る	木刀で行う
				切り返し	剣道具一式	切り返しが伸び伸びと出来る	同3級
				互角稽古		互角稽古が出来る	同3級